

有機EL あれこれ解説

東根で「タントまなべ学園」講座



実験も交えながら講演する硯里善幸さん（左）
＝東根市・さくらんぼタントクルセンター

東根市民立大学「タントまなべ学園」のTコース講座が28日、同市のさくらんぼタントクルセンターで開かれ、山形大学術研究院の硯里善幸准教授が有機ELの発光原理や日常生活への応用について解説した。

硯里さんは発光ダイオード（LED）との違いや蒸着プロセスといった製造方法などを説明し、「有機ELは分子一つ一つで性能を出すことができ、柔らかく曲げられるフレキシブルさが魅力」と強調した。
市場やフレキシブル化動

向の予測を示した上で、折り畳みスマートフォンやディスプレイ以外の活用などを紹介。開発したガラス基板を用いた曲がるパネルの可能性について「自動運転の開発が進む中、車内ディスプレイと融合できる湾曲可能なディスプレイが求められ、有機ELへの期待が高まっている」とした。

約30人が聴講した。紫外線を当てながら色素を溶かした液体を混ぜて白色を作る実験も行われ、興味深く見入っていた。

（須藤仁）